

むかし話のあらすじと、正しい「だい名」をせんでむすびましょう

1

あるどうぶつが、たすけてくれたおじいさんとおばあさんにおんがえしをする話です。おんがえしのしかたは、自分の「はね」と、おじいさんに買ってきてもらった「糸」をおってし上げた「きれいなぬの」を売ってお金をかせぐことでした。

- おむすびころりん

2

お正月が近づいているのに、もちも買えないおじいさんとおばあさんがいました。作っていた「かさ」を売り、もうけたお金でお正月のたべものをかうつもりが、まったく売れませんでした。

- ももたろう

3

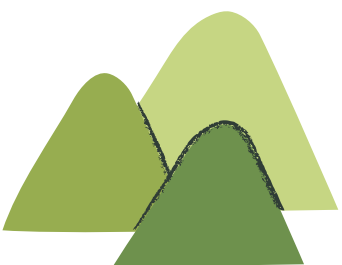
おじいさんが山でいつものように木を切っていると、おひるの時間になりました。おばあさんがにぎってくれたおむすびを食べようとすると、コロコロころがりあなへ入ってしまいました。

- つるのおんがえし

4

おじいさんが山へしばかりをしているあいだ、おばあさんは川でせんたくをしていると、大きなくだものがながれてきました。家にもち帰り、たべるために切ろうとしたら元気な男の子がとびだしてきました。

- かさじぞう



むかし話のあらすじと、正しい「だい名」をせんでむすびましょう

1

おにたちのえん会にぐうぜんいあわせたおじいさんが、おどりをひろうするはめになりました。すると、おにたちにおどりをほめられました。ひよんなことからずつと気にしていたあるものを、とられてしまいます。

- こぶとりじいさん

2

おじいさんがきつねの子どもに木のみをとってあげました。ある日、子ぎつねと母さんぎつねからおれいにと「頭きん」をもらいました。頭きんのおかげで、長じやさまのむすめがやまいにふせているりゆうが分かりました。

- かちかち山

3

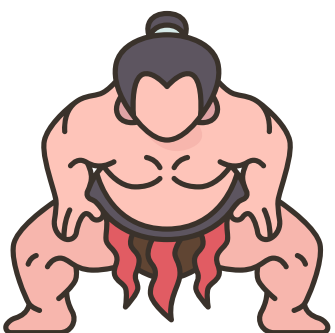
元気な男の子は、山のくまとすもうをとってかつほどの力もち。なかまのどうぶつたちと出かけているとき、はしがなくなっていることに気がついた男の子は、木をたをしてはしのかわりにしました。

- 聞き耳ずきん

4

うさぎとたぬきが出てくるおはなしです。わるいたぬきのせいでおばあさんがなくなり、なげきかなしんでいるおじいさんを見たうさぎが、おばあさんのあだうちのためにたぬきたいじをします。

- 金たろう



むかし話のあらすじと、正しい「だい名」をせんでむすびましょう

1

一つ目の大男に、たべものなどをとられてこまっていたむらの人たちは、大男をこらしめようとさくせんを考えました。

•

• うらしまたろう

2

おやゆびほどの大きさの男の子が「さむらいになる」といって、京のみやこに出ていきました。つかえてある家のおひめさまがおににさらわれましたが、おにたいじをしておひめさまをたすけます。

•

• わらしべちょうじや

3

まずしいけれどまじめなわかものが「かんのんさま」にびんぼう生活からぬけだしたいとねがいしました。かんのんさまからおつげをもらい、おつげどおりに行動すると、色々なことがおきました。

•

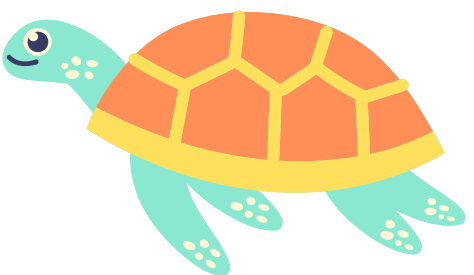
• だんだらぼっち

4

りょうしのわかものが、はまべで子どもたちにいじめられているかめをたすけてあげました。かめはおれいにと、わかものを海の中よりゆうぐうじょうにつれていきました。

•

• いっすんぼうし



むかし話のあらすじと、正しい「だい名」を線でむすびましょう

1

1 年よりの木こりとわかい木こりが山で木を切っていました。その山は「まもの」がでるといいうわさがあり、年よりの木こりは「まもの」が出ないかとけいかいしていました。

- ふんぶくちやがま

2

2 雨がふるたびにながれてしまうはしがありました。村人たちからはしを作るようにたのまれた男がなやんでいると、おにが「おまえの目玉とひきかえにはしを作つてやる」と言い、はしを作つてしまいました。

- 牛うしおにぶち

3

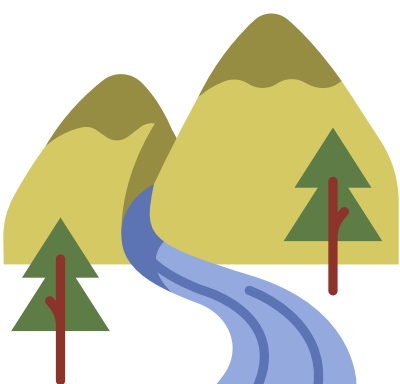
3 おちやのかまにへんしんしていた「たぬき」がひよんなことから、まずしい男にひきとつてもらい、つなわたりなどのげいを見せてお金をかせぎ、男はお金もちになりました。

- 大工とおにろく

4

4 心やさしいおじいさんといじわるなおばあさんがくらしていました。ある日、おじいさんがはたけからいえへもどるとちゅう、けがをしているどうぶつを見つけました。かわいそうに思ったおじいさんは家につれていき、手当てをしてあげました。

- したきりすずめ



むかし話のあらすじと、正しい「だい名」を線でむすびましょう

1

心やさしいおじいさんとおばあさんと、よくぶかいいじわるなおじいさんとおばあさんがとなりどうしにすんでいました。ある日、やさしいおじいさんのところに犬が走ってきました。いじわるじいさんののはたけをあらしているというのです。

- かぐやひめ

2

竹とりのおじいさんが竹を切っているとき、光りかがやく竹を見つけてきました。おじいさんが切ってみると、その中には小さな女の子がいたのです。子どもはいないおじいさんは家につれて帰り、おばあさんとそだてることにしました。

- 十二しのはじまり

3

むかし、かみさまがどうぶつたち「こんどのがんたん」にわたしのところに来なさい。十二番目までについたものは、これから一年交たいでどうぶつの大しようとする」とおふれをだしました。

- 花さかじいさん

4

びょうじやくなお母さんと男の子がくらしていました。お母さんにくすりをか買いたくてもお金が足りず、買えません。ゆうふくなおじいさんにお金をかりてくすりを買いました。お金をかえすために、男の子はいっしょうけんめいはたらきました。

- ごんぞうむし

